



かながわの赤十字

平成30年度

事業報告(ダイジェスト版)



災害救護事業

救護班

地震等の大規模災害が発生した場合に、医師・看護師などを中心とし た救護班を直ちに被災地に派遣し、「医療救護活動」や「こころのケ ア」を行います。

平成30年7月豪雨災害への対応

こころのケア活動(災害対策本部調整班として)

1班4人

1班11人

北海道胆振東部地震災害への対応

医療救護班活動(ボランティアも含む)

奉仕団・ボランティア活動(支部災害対策本部支援センター) 14人

訓練・研修会 実施数

行政機関関係訓練 9回 17_回

日本赤十字社等の訓練・研修

義援金の受付

赤十字は、国内で起こった災害について義援金を受け付け、被災地の義援 金配分委員会に全額を送金し、その後、被災された方々に配分されます。

東日本大震災義援金

平成28年熊本地震災害義援金

平成29年7月5日からの大雨災害義援金

平成30年大阪府北部地震災害義援金

平成30年米原市竜巻災害義援金

平成30年7月豪雨災害義援金

平成30年北海道胆振東部地震災害義援金

1,528件 189,413,801円 (平成30年度実績)



救援物資の備蓄・配布

大規模災害の被災者に対して、緊急セット、安眠セットや毛布を届け ます。また、災害救助法が適用されない火災・風水害等の被災者に対 して、地区本部・地区・分区の協力により援護物資と見舞金等を迅速に 届けます。

救援物資備蓄状況

毛布 19,090枚 安眠セット 410セット 5,934セット 緊急セット 1,000枚 タオルケット ブルーシート 2,450枚

援護物資備蓄状況

援護物資(日用品) 2.423セット

火災・風水害・床上浸水被災者援護

被災援護世帯 320世帯

援護物資お届け 247セット

見舞金等お届け 347件

赤十字奉仕団

神奈川県内では94団、約2万 3千人の奉仕団員が活躍して います。赤十字活動は、奉仕団 をはじめとする赤十字ボラン ティアによって支えられていま



県内の赤十字奉仕団

地域を拠点にして活動する奉仕団 51団 20,290人 大学生や若い人たちが集まった奉仕団 5団 273人 特別な知識や技術を生かした活動をする奉仕団 38団 2,138人 合計 94団 22,701人

赤十字思想普及

大学での講義をはじめ、 国際人道法を題材とした 写真展の開催、また、見 学・体験スペースとして 「かながわ赤十字情報プ ラザ」を常設し、赤十字 の活動を知ってもらいま



かながわ赤十字情報プラザ来場者数 2,699人 写真展 2回 2,966人 5回 707人

大学での講義

青少年赤十字

自ら気づき、考え、行動できる子どもたちの育成を目的として、幼稚園、保育園、小・中・高等学校 など教育現場に赤十字の理念、知識、技術を取り入れてもらい、活動につなげます。救急法や防 災学習、国際理解などのさまざまな活動があります。

県内の青少年赤十字登録校

幼稚園·保育園 17園 1,969人 一貫教育校 2校 1,244人 小学校 112校 48,339人 特別支援学校 14校 1,749人 中学校 114校 31,503人 地域単位での登録 65人 1校 高等学校 117校 12,973人 合計 17園360校 97,842人



健康·安全事業

いのちと健康を守るための具体的な知識と技術を伝える講習を、ボランティア指導員の協力のもと、神奈川県各地で開催しています。

県内の講習開催状況

開催回数 1,355回 参加人数 37,483人

救急法

救命手当や応急手当の知識・技術を学びます。



開催回数:875回/参加人数:26,156人

水上安全法

水難事故防止、おぼれた人の救助の方法について学びます。



開催回数:132回/参加人数:3,889人

雪上安全法

雪上の事故防止、けが人の救助の方法について学びます。



開催回数:3回/参加人数:22人

健康生活支援講習

高齢期を健やかに生きるための知識や、 高齢者の自立に役立つ介護技術などを 学びます。



開催回数:131回/参加人数:3,138人

幼児安全法

乳幼児期に起こりやすい事故の予防とけが の手当、かかりやすい病気の対処方法につい て学びます。



開催回数:214回/参加人数:4,278人

社会福祉事業

介護が必要な高齢者、障害により支援を必要とする方々が、安心して生活を送れるよう、全国で28の社会福祉施設を運営しています。神奈川県内では、視覚障害者

のための総合的な福祉施設である「神奈川県ライトセンター」を指定管理者として運営しています。

図書貸出総数	39,494タイトル
点字•録音雑誌等貸出総数	38,345部
相談•訓練件数	2,496件
スポーツ施設利用者数	19,834人
ボランティア活動人数	27,052人
移動ライトセンター参加者	1,271人
福祉教室•施設見学者数	4,091人



医療事業

全国で92の病院を運営し、災害医療拠点病院の役割

をはじめ、各地域における中核医療機関として日々、皆さまに信頼される病院運営に努めています。



横浜市立みなと赤十字病院

外来患者数283,205人(1日あたり1,161人)入院患者数196,302人(1日あたり 538人)病床利用率84.8%

秦野赤十字病院

外来患者数111,883人(1日あたり 459人)入院患者数76,038人(1日あたり 208人)病床利用率79.5%

相模原赤十字病院

外来患者数94,730人(1日あたり 354人)入院患者数36,892人(1日あたり 101人)病床利用率76.6%

診療所(相模原市立青野原、千木良、藤野診療所)

外来患者数 18,278人(1日あたり 75人)

看護師養成

委託在学生数 53人

血液事業

血液製剤の安全性の向上と安定供給に努めています。神奈川県内では、8カ所の献血ルームと12台の献血バス等により、皆ごが加たら献血のでは、ま方から献血のでは、ます。

県内の採血状況

成分 90,697a 全血200ml 10,769a 全血400ml 201,154a 合計 302,620a

県内の供給状況

赤血球製剤 202,367* 血漿製剤 65,352* 血小板製剤 50,316* 合計 318,035*



国際赤十字の成り立ち

赤十字は、スイス人の実業家「アンリー・デュナン」の提案から始まりました。

デュナンは戦争時の傷病兵救護の体験から、著書「ソルフェリーノの思い出」の中で「戦争で傷ついた人た ちを助けるための団体を、各国に組織しておくこと」「この団体が行う戦地での救護活動を守るための国 際条約をつくること」という二つの提案をしました。そして生まれた組織が赤十字です。現在、世界191の国 と地域に赤十字社または赤新月社があります。日本赤十字社もその中のひとつです。

世界各国の赤十字社・赤新月社は、

・人間の生命と健康を守ること ・人間の尊厳を守ること ・人間の苦痛を予防し軽減すること を目的として、公平・中立の立場でさまざまな活動を行っています。



国際赤十字のしくみ

赤十字は「赤十字国際委員会」「国際赤十字・赤新月社連盟」「各国の赤十字・赤新月社」 の3つの機関がそれぞれに役割を持って、互いに協力しながら行っており、これらを総称 して「国際赤十字・赤新月運動」と呼びます。

赤十字国際委員会の役割

戦争、紛争などの際に、中立機 関として犠牲者の保護と救援 にあたることを主な活動とし ています。



国際赤十字・赤新月社連盟の役割

各国赤十字社の連合体で す。主に災害救援・防災活 動や保健衛生事業などの 総合調整を行っています。



各国赤十字社・赤新月社の役割

それぞれの国において、災害 対策、医療、保健、社会福祉、青 少年育成にあたることを主な 活動としています。



日本の赤十字

西南戦争(1877年)のとき、元老院議官であった佐野恒民と大給恒 はヨーロッパにある赤十字のような、戦争での傷病者を敵味方の区 別なく救護する団体を日本にも作りたいと明治政府に願い出まし た。そして、政府軍の総督である有栖川宮熾仁親王の許可により、日 本赤十字社の前身である「博愛社」が誕生しました。

その後、1886年日本がジュネーブ条約に加盟したことに伴い1887 年「日本赤十字社」と改称されました。

日本赤十字社は、日本赤十字社法という法律に基づいて設立され た法人です。日本赤十字社は、事業資金への協力をする会員・寄付 者およびさまざまな赤十字活動を展開するボランティアによっ て支えられ、本社・支部・病院・血液センター・社会福祉施設などが 多角的に活動しています。

神奈川の赤十字

職員数 2,384人 (平成31年3月末現在)

神奈川県には7つの赤十字施設(支部、3病院、2血液セン ター、福祉施設)と3つの診療所、8つの献血ルーム、12台の 献血バスがあり、多くのボランティアの協力のもと、活動を 行っています。

また、県内市区町村には、赤十字地区分区を設置し、地域で の赤十字活動を推進しています。地区分区は、市区町村や社 会福祉協議会が担っています。

赤十字の活動資金

赤十字の活動は皆さまからの寄付により支えられています。

※赤十字病院、血液センターならびに社会福祉施設は 施設ごとの特別会計になっており、この決算には 含まれません。

(平成30年度 決算)

		(179000172 77077)
収入	会費等収入	960,209,195 円
	事業収入他	109,947,930円
	合計	1,070,157,125円
支出	事業支出	941,891,272∄
	翌年度繰り越し	128,265,853 円
	合計	1,070,157,125円

各金融機関からのご協力

郵便局(ゆうちょ銀行)	00290-8-20001
横浜銀行 県庁支店(普通)	1031284
三菱UFJ銀行 横浜中央支店(普通)	1110858
みずほ銀行 横浜支店(普通)	1733012

受取人はいずれの口座も「日本赤十字社神奈川県支部」です。 金融機関によっては振込み手数料をご負担いただく場合が あります。

また、日本赤十字社へのご寄付には、税制上の優遇措置が 受けられます。

遺贈や相続財産寄付によるご協力も受け付けています。





